

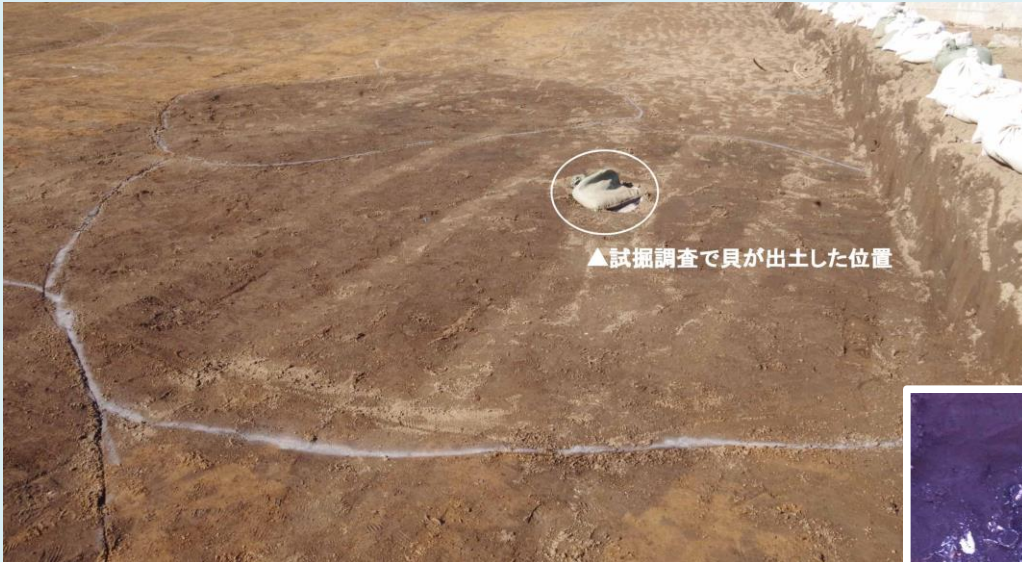


# 氷川前遺跡第99-1地点 発掘調査速報

作成日：2023.11.7  
富士見市教育委員会  
生涯学習課 文化財G

## ⑤ 令和5年10月23日～27日(縄文時代住居・貝塚編)

10月第4週の作業では、調査区北側に位置する弥生時代の住居跡と並行して、調査区南東部に位置する縄文時代の住居跡、仮称1Jの調査も本格的に着手しています。この住居跡からは、試掘調査で貝殻が出土していたことから、縄文時代の貝塚(貝殻などを廃棄した痕跡)である可能性が高いと目されました。



▲試掘調査で貝が出土した位置



▲試掘調査の際に貝殻が出土した様子

### ▲1J(仮称)の検出状況(掘り下げる前の状況)

表土を剥いで観察したところ、縄文時代の住居跡と重複して、別の時期の遺構があることがわかりました。

このように遺構が重なり合っている場合、より新しい時代の遺構から順に発掘していくのが原則です。

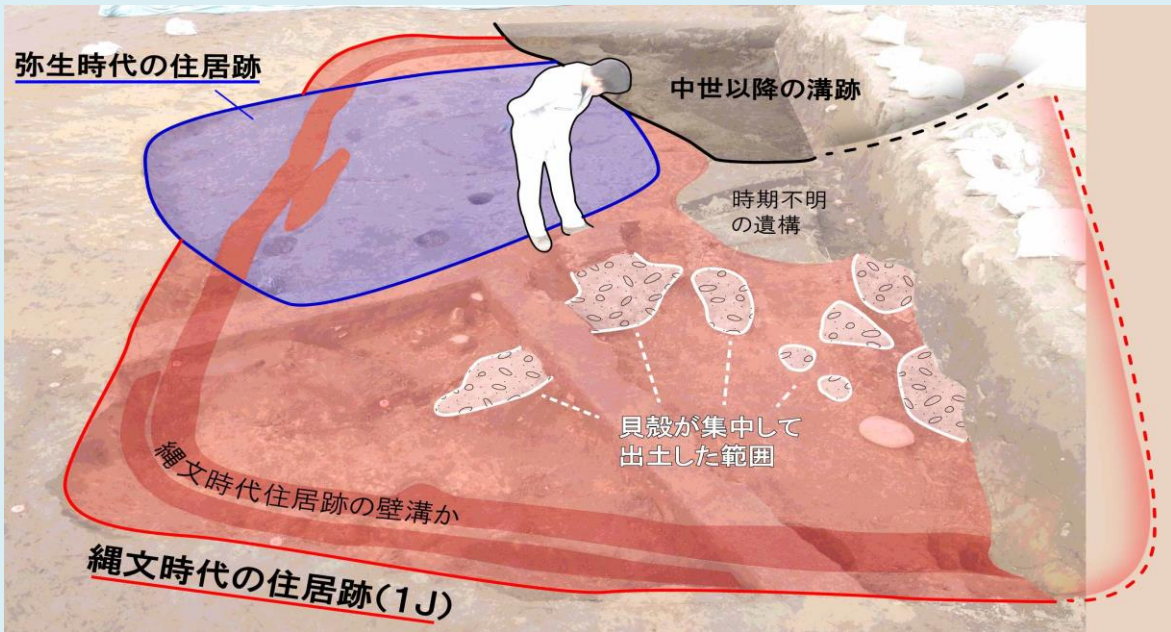
重なり合う遺構のうち、どれが新しく、どれが古いのかを見極めるために、細い溝状の掘削(サブトレンチ)を入れる場合があります。

◀1J(仮称)を通る位置にサブトレンチを掘っている様子。青枠の部分がサブトレンチにあたる。



結果として、1J(仮称)と重なり合っているのは、弥生時代の住居跡と、中世以降の時代の溝跡であることがわかりました。

これらの遺構について掘削と記録を行ったのち、1J(仮称)の掘り下げを開始しました。



1J(仮称)掘削中の状況(写真上)と、その模式図(写真下)



参考：水子貝塚で確認された縄文時代前期の住居跡。  
深い壁溝がめぐっている。

掘り下げの結果、住居跡内部で貝殻が集中する範囲が確認できました。貝以外にも、縄文時代前期中ごろ(約6000年前)の土器の破片や石器が出土しました。

掘り下げが進んでくるにつれて、住居跡の壁面の少し内側をめぐるようにして、細い溝のような掘り込みがあるらしいことが見えてきました。

これは壁溝(へきみぞ)と呼ばれるもので、この時期の住居跡にはしばしば見られるものです。



1J (仮称)での  
貝の検出

出土した貝と  
縄文時代前期の土器



発掘の様子